



## ルールづくり (ルールの在り方を考える)



# 概 要

## 1 はじめに

法もルールの一つですが、このテーマでは、ルール一般について取り上げています。

ここでは、公共的な事柄について複数の見解が対立している事例や、誰かの自由が他者の自由と衝突している事例を設定し、それぞれの立場に分かれて意見を主張し、その後、異なった意見を調整して合意形成を行い、あるいはルールを作成させるなどのロールプレイ型の指導案などを提示しています。

その中で、生徒たちから、「どのような結論が正解なのか」という質問を受けることがあるかもしれませんが、決まった正解はありません。

もっとも、どのようなルールでもよいというわけではなく、相対的によりよいルール、つまり、正義にかなった公正なルールとなることを目指し、「ルールの意義・必要性」、「どのようにルールを作るか（手続の公平性）」、「どのようなルールが良いか（ルールの内容）」などの点をよく検討した上で、ルールを作ることが大切です。

そのため、授業を行う際には、合意形成やルールづくりを体験する中で、どのような内容であれば合意できるか、どのようなルールであれば従うことができるかを考え、作ったルールを評価・吟味することで、ルールに対する理解をより深めることを重視していただきたいと思います。

また、ルールは、人々の社会生活を円滑にするための手段ですから、社会情勢の変化や新たに生じた問題に対応するため、既存のルールを見直す場合があります。

## 2 ルールの意義・必要性について

社会には、様々な価値観や考え方をを持った人々が存在しています。このような人々がそれぞれ自由に行動しようとする、他者の自由と衝突することがあります。

例えば、「室内で犬を飼いたい」と思っているXさんと、「静かな生活を送りたい」と思っているYさんが隣同士の部屋に暮らしていたとします。Xさんが自分の希望のとおりに行動し、犬を飼い始めた場合、犬の鳴き声で、静かに暮らしたいというYさんの自由と衝突してしまうかもしれません。

このように、自由同士が衝突した場合に、ルールがなければどうなるでしょうか。強い立場の人や多数派の自由ばかりが優先され、弱い立場の人や少数派は自由な活動ができなくなってしまうかもしれません。

そのような事態にならないよう、お互いの自由を尊重した上で、調整を行うためにルールは存在しています。ルールは、人々が円滑な社会生活を行う上で必要なものなのです。

もちろん、自由同士が衝突・対立し得る場合には必ずルールを作るべきだというわけではなく、ルールを作らず、個人個人の考えや行動に委ねた方が望ましい場合も考えられます。

また、実際にルールを作るべきかどうかを検討するに当たっては、検討の基礎となるべき事実を正しく認識することも重要です。ルールを作る際は、そのルールの目的や機能だけを考えるのではなく、そのルールが社会全体の中でどのような機能を果たすことになるかを評価する視点を持つことも必要です（さ

もなければ、せっかく作ったルールがかえって社会の人々にマイナスを及ぼすことにもなりかねません。)

ですから、ルールづくりの授業を行うに当たっては、そもそもルールを作るべきなのか、作るとしてもどの範囲でルールを作るべきかについても考えるなど、様々な観点から考察することで、ルールの意義・必要性への理解がより深まると思います。

また、たとえルールが存在していたとしても、誰も従おうと思わないルールでは意味がありません。ルールを作るときの大切なことの一つに、ルールの適用を受ける人たちがそのルールに納得するということがあります。一人でも多くの人たちの納得を得るためには、どのようにルールを作るか（手続）と、どのようなルールが良いか（内容）の二つのポイントがあります。

## 3 どのようにルールを作るか（手続の公平性）

### （1）みんながルールづくりの過程に参加していること

例えば、学校全体に関わるルールであるにもかかわらず、自分のクラスだけがそのルールを作る話合いに参加できなかったら、どう思うでしょうか。「勝手に作られたルールなんて守りたくない」と思うのではないのでしょうか。そのルールによって自分たちが不利益を受けるのであれば、なおさらです。

反論したり、意見を述べたりする機会を与えられないまま、一部の人たちだけで作ったルールでは、そのルールによって不利益を受ける人たちの納得は得られません。自分たちが主体的に参加し、作成したルールだからこそ、守らなくてはならないという気持ちになるのです。また、ルールを作る際には様々な観点からの考察を加えることが重要ですから、様々な立場の人がルールづくりに関与することは、よりよいルールを作るためにも有益です。つまり、みんなに関係するルールはみんなで決める、みんながルールづくりの過程に参加する、ということが大切なのです。

この「みんなのことはみんなで決める」という考え方を民主主義と言います。

### （2）少数者への配慮

それでは、みんながルールづくりの過程に参加すれば、どのようなルールを定めてもよいのでしょうか。

ルールには、1対1の関係を調整する場合と、多数の利害を調整する場合があります。そして、多数の利害を調整する場合には、多くの場合、少数の立場が生まれます。ルールを作るときに大切となるのが、この少数の立場への配慮です。

みんなでルールを決めるとき、話合いで折り合いが付けば良いのですが、話合いで決まらない場合に決着を付ける一つの手段として、多数決があります。集団の意思の決定には、多数決が適しており、みんなで話し合って多数決で決定したことは、みんなで守ることが大切です。

しかし、多数決には、時として、少数者の利益を不当に侵害しかねない面もあります。いくら、みんなが話合いに参加していたとしても、多数決によって、個人の尊厳を否定したり、特定の少数者だけが不当に不利益を被ったりするルールを定めることは許されません。

例えば、学年集会で騒いだ生徒に対して反省を促す目的で、多数決によって、「1か月の間、学校内で誰とも話をしてはいけない」といったルールを定めることは、当該生徒の人格や気持ちを無視し、個人の尊厳を否定するものであり、許されません。

また、部活動に所属している生徒が35人、所属していない生徒が5人というクラスにおいて、多数決で掃除当番を決めるに当たり、「部活動に所属していない5人が日替わりで掃除当番となる」といっ



たルールを定めることは、特定の少数者だけが不当に不利益を被るものであり、許されません。

自分が少数者の立場に立ったときのことを想像すれば、そのようなことが許されないことはイメージしやすいのではないのでしょうか。

## 4 どのようなルールが良いか（ルールの内容）

ルールの内容を評価する視点としては、次のようなものがあります。

### (1) 手段の相当性（目的達成のために役に立つルールであるかどうか、役に立つとしても、手段として適切か）

例えば、SNSでのいじめを防止するため、「学校でも家でもスマートフォンを持つことを一切禁止する」というルールが作られたとします。

このようなルールについては、スマートフォンの所持を禁止しても、いじめがなくなるわけではない一方で、家庭の都合などで連絡用にスマートフォンを使っていた生徒にとっては、必要な連絡手段が奪われてしまうことになります。

このようなルールは、目的達成への寄与度が低い上、特定の人に過大な不利益を与えるものであり、手段の相当性が欠けたルールと言えます。

### (2) 明確性（意味がはっきりと分かるか、複数の解釈ができないか）

ルールの内容が明確でないと、そのルールが何を意味しているのかを巡って混乱が生じますし、紛争の解決にも困難を生みます。そのようなことがないように、誰が見ても、はっきりと意味が分かるように表現することが必要です<sup>(※)</sup>。

例えば、「部活動の雰囲気乱した人は、部活動に来てはならない」というルールがあったとします。このようなルールだと、「部活動の雰囲気乱した」という部分が何を意味するのか曖昧であり、人によってその解釈が異なるため、明確性が欠けたルールと言えます。

※ なお、実際の法律の規定には、様々な理由から明確化できないことがやむを得ないとされているもの、あえて明確化せずに抽象的な原理を宣言する意義が認められているものも珍しくありません。例えば、民法第1条第3項には、「権利の濫用は、これを許さない」という規定があります。

つまり、ルールを明確化することは重要ですが、それだけがルールの善し悪しを決める判断基準ではなく、ルールの目的に応じたルールづくりが必要なのです。

### (3) 平等性

ここでいう平等性とは、立場を入れ替えてもそのルールを受け入れられるということの意味しています。みんなが全く同じ取扱いを受けるべきだということの意味するものではありません。

例えば、男子生徒が掃除をさぼって女子生徒ともめることが多いクラスで、「掃除は男子生徒のみで行う」というルールを作ったとします。女子生徒からすると、このルールに納得するかもしれませんが、もし、女子生徒に男子生徒と立場を入れ替えて考えてみたらどうか、と問えば、そのルールを受け入れることはできないと考えるのではないのでしょうか。このようなルールは、平等性が欠けたルールと言えます。

以上のような点に着目し、作成したルールについて評価する機会を設けると、生徒の理解がより深まるものと思います。



## 指導案(2)

新たなルールを考えよう  
～ルールのない村～

## ●目標

- ・法やルールの意義及び役割（法は共生のための相互尊重のルールであり、国民の生活をより豊かにするものであること、法やルールには、人の行動を規制し、社会の秩序を維持するだけでなく、人の活動を促進したり、紛争を解決したりするなどの機能があること）について考えさせ、理解させる。
- ・どのような手続でルールを作成すればよいか（手続の公平性）、作成したルールをどのような視点で評価すればよいか（手段の相当性、明確性、平等性）について考えさせ、理解させる。

## ●教科等

## ・公民科「公共」

## A 公共の扉

## (3) 公共的な空間における基本的原理

自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(イ) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解すること。

## B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解すること。

※ 本指導案については、現行学習指導要領の公民科「現代社会」及び「政治・経済」において、その目標及び内容に即して工夫することにより、実施することも考えられる。

●指導計画【想定授業時間：50分】

進行 (所要)	内容	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題把握</li> <li>・「ワークシート」を配布し、課題を把握させる。</li> </ul>	
展開① (5分)	<p><b>問1</b> 「ルールのない村」の問題点は何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人ワーク</li> </ul>	<p><b>予想される生徒からの意見</b></p> <p>悪事を行った者に対する罰則（ルール）がないために、①悪事を働く者が出てくる、②被害を受けた者が直接仕返しをしている。</p>
	<p><b>問2</b> この村にルールを作るとしたら、どのような内容にすれば良いだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ルールを作成する際の留意事項として、ルールの内容を評価する視点を説明する。</li> <li>●個人ワーク</li> <li>・どのようなルールを作れば問題解決を図ることができるかを考えさせ、ルールを作成させる。</li> </ul>	<p>以下を参照して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ルールづくり（ルールの在り方を考える）の概要「4 どのようなルールが良いか（ルールの内容）」→10ページ</li> </ul> <p>ルールの内容を評価する視点（手段の相当性、明確性、平等性）を踏まえてルールを作成させる。また、ルール違反者への対処方法（罰則の有無など）についても検討させる。</p>
展開③ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループワーク</li> <li>・個人ワークの検討結果を踏まえ、問2をグループ（4名程度）で議論させ、ルールを作成させる。</li> </ul>	<p>他者と合理的な議論を行い、他者の意見を真摯に聞き、時には自らの意見を変え、より良い意見を創出していくことの重要性について理解させる。</p>
まとめ① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表、講評</li> <li>・生徒に検討結果を発表させる。</li> <li>・教員による講評を行う。</li> </ul>	<p>生徒が作成したルールが、ルールの内容を評価する視点を踏まえたものとなっているかについて評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ルールの例</li> <li>「人の畑から許可なく作物を持って行ってはならない。違反した者は、持って行った作物の2倍の作物を被害者に渡さなければならない」</li> <li>●不適切なルールの例</li> <li>・手段の相当性、平等性を欠くもの</li> <li>「盗みをした者が所属する部族の者は全員で、被害者に弁償をしなければならない」</li> <li>「盗みをした者は、被害者からの要求に何でも応じなければならない」</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確性を欠くもの 「自分がされて嫌なことは、他人にしてはならない」 「悪いことをしてはいけない」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手続の公平性を説明する。</li> </ul>	<p>以下を参照して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールづくり（ルールの在り方を考える）の概要「3 どのようにルールを作るか（手続の公平性）」⇒9 ページ</li> </ul> <p>※展開②, ③で作成したルールや、上記「不適切なルールの例」を取り上げ、「自分が村人だったとして、自分が全く知らないところで、一部の人たちだけでこのようなルールが勝手に作られていたら納得できるか」等と問い掛けてから、手続の公平性についての説明を行うことが考えられる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールの意義・必要性和機能を説明する。</li> </ul>	<p>以下を参照して説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールの意義・必要性：ルールづくり（ルールの在り方を考える）の概要「2 ルールの意義・必要性について」⇒8 ページ</li> <li>● ルールの機能：「はじめに」の「1（2）法の機能」の①, ②, ③⇒2 ページ</li> </ul> <p>※④（資源を配分する機能）は、国家が一定の政策に基づいて、資源を配分するための機能であり、本指導案におけるルールと直接関連するとは言い難いため、ここでは取り上げない。</p>
<p>まとめ② (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「振り返りシート」を配布し、授業の振り返りを行う。</li> </ul>	<p>ルールの意義・役割については、次のような説明が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ルールの機能について、「人の畑から許可なく作物を持って行ってはならない。違反した者は、持って行った作物の2倍の作物を被害者に渡さなければならない」というルールがあれば、このルールによって、次の効果が考えられる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①盗みをする自分が後で損をするという心理的抑制が働き、秩序が維持される（人の行動を規制し、社会の秩序を維持する機能）</li> <li>②自分の畑から作物が盗まれることがあったとしても、持って行かればなしにはならないと決まっているため、安心して作物を作ることができ、経済活動が促進される（人の活動を促進する機能）</li> <li>③実際に盗みをした人がいた場合の紛争解決方法が明確になっており、紛争解決に資する（紛争を解決する機能）</li> </ul> </li> </ul> <p>※ルールの意義・必要性や機能について、より深く考えさせたい場合、「【コラム】共有地の悲劇」の事例（⇒23ページ）を用いることも考えられる。</p>

## コラム

## 共有地の悲劇

「共有地の悲劇」は、アメリカの生物学者であるギャレット・ハーディンが1968年に「サイエンス」に発表した論文で、次のような内容です。

すべての人が使用できる牧草地を、想像していただきたい。そのとき、牧夫はおのおの、できるだけ多くの牛を共有地に放そうとすると考えられる。(中略) 各々の牧夫は彼の利得を極大化しようとする。(中略) 「私の群れにもう一頭加えると、私にいかなる効用が生ずるか」。(中略) 合理的な牧夫は、彼が取るべき唯一の行動はもう一頭を群れに加えることだ、と結論づけることになる。そして、もう一頭、もう一頭……と。しかしながら、共有地を分けあっているすべての合理的な牧夫が、このような結論に到達するのである。ここに、悲劇が生ずる。各人が、限りある世界において、限りなく自らの群れを増やすよう彼を駆り立てるシステムに、閉じ込められてしまうのである。共有地についての自由を信奉する共同体において、各人が自らの最善の利益を追求しているとき、破滅こそが、全員の突き進む目的地なのである。共有地における自由は、すべての者に破滅をもたらす。

〔出典〕ギャレット・ハーディン著／桜井徹訳「共有地の悲劇」シュレーダー＝フレチェット編／京都生命倫理研究会訳『環境の倫理 下』（晃洋書房、1993年）

この「共有地の悲劇」を基にして、以下のような授業を行い、ルールの意義・必要性や機能について考えさせることも可能ではないでしょうか。

〔生徒に提示する事案例〕

ある村に共有の牧草地があり、村人はそれぞれそこで牛を育て、牛乳を搾り、それを売って生活していました。

当初、牧草地には牧草が豊かに茂っていましたが、村人がそれぞれ、競うようにして飼う牛の数を増やし続けた結果、牛たちが牧草を食べ尽くし、牧草地は荒れ果ててしまいました。食べる牧草がなくなった牛たちはやせて牛乳が出なくなり、村人は全員、収入がなくなっていました。

〔生徒への問い掛け例と予想される意見〕

- この牧草地が、自分一人だけで所有する牧草地だった場合、その人は牛の数を増やし続けると思いますか。
  - ➔増やさない。牧草がなくならないように牛の数を調整する。
- 牧草地の牧草に限りがあることは分かっていたはずなのに、どうして村人たちは、それぞれ飼う牛の数を増やし続けたと思いますか。
  - ➔自分が牛を増やさずに他の人が牛を増やしたら、自分だけ損をしてしまうと考えたから。
- このような悲劇を防ぐために、どのような方法が考えられますか。
  - ➔牧草地の利用についてのルールを決めておく。





## ワークシート



年 組 番 氏名

昔あるところに「ルールのない村」があり、イヌやオオカミなどの犬族と、サルやゴリラなどの猿族が住んでいました。

この村では、皆、様々な作物を育て、それらを使った料理を提供するレストランを協力し合って経営しており、全員が豊かな暮らしをしていました。

そんなある日、わがままなサルが、イヌの畑から勝手にジャガイモを取って行ってしまいました。

イヌの話聞いた友人のオオカミは怒って、仕返しだと言って、サルとゴリラが共同で育てていたカブを勝手に持って行ってしまいました。

その後、犬族と猿族の間では、お互いの畑から作物を勝手に持って行くことが繰り返されるようになり、それまでは仲良くしていた犬族と猿族の村人同士までいがみ合うようになって、レストランを続けることはできなくなってしまいました。

また、村人全員が「一生懸命育てても、どうせ勝手に持って行かれてしまう」と考えるようになり、村で作物を育てる者はほとんどいなくなりました。

そして、村はどんどん貧しくなり、村人たちはその日食べる食料にも困るようになってしまいました。



**問 1** 「ルールのない村」の問題点は何だろうか。

**問 2** この村にルールを作るとしたら、どのような内容にすれば良いだろうか。

【個人ワーク】

【グループワーク】

 振り返りシート



年 組 番 氏名

● ルールの内容について

**【手段の相当性】**

① 目的達成のために役に立つルールといえるか。

いえる                       いえない

② (過剰なルールではなく) 目的に照らして、手段が適切といえるか。

いえる                       いえない

**【明確性】** 複数の解釈ができるような曖昧なルールになっていないか。

なっていない               なっている

**【平等性】** 立場を入れ替えても受け入れられる内容となっているか。

なっている                   なっていない

● ルールの意義・役割について

観点	① 社会の秩序を維持 することができるか	② 人々の活動が 促進されるか	③ 紛争が起こったとき、 解決することができるか
ルールがない場合 (ルールのない村)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)
ルールがある場合 (ルールのある村)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない (理由)

➡ だから、ルールには意義があり、社会にはルールが必要である。